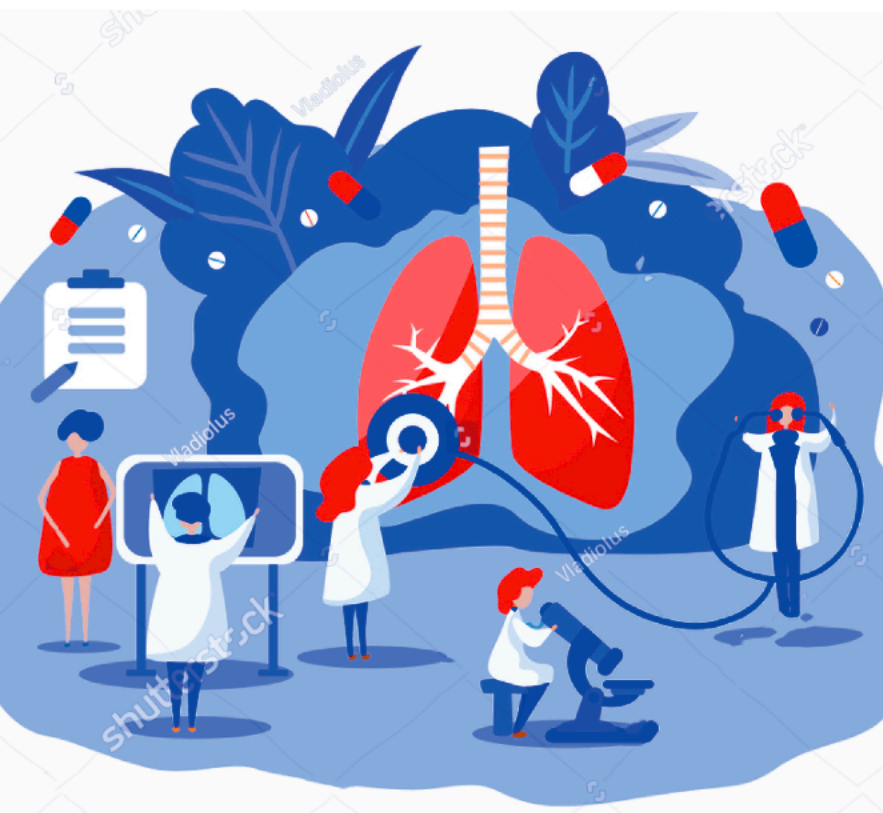


MISSION



未来を生きる。
世界は変えられる。
そのために。

中皮腫は、根治が難しく、予後も2年程度の厳しい悪性腫瘍です。このような状況はもう何十年も大きく変わっていません。しかし、近年、免疫チェックポイント阻害薬やがんゲノム医療の登場によって変化の兆しがみえています。

このような医療環境の変化を捉え、臨床研究など、治療環境の変化につながる研究への支援によって中皮腫を「治せる病気」に変えていきます。

ご寄付のおねがい

当法人は、みなさまの寄付によって中皮腫の治療研究に対する支援のための財源を募っています。「中皮腫の克服」に向けて、お力添えをいただきますようお願い致します。

銀行振り込みをご利用の場合

銀行名	住信SBIネット銀行
支店名	法人第一支店(支店番号:106)
預金種別	普通
口座番号	1789712
口座名(漢字)	中皮腫治療推進基金
口座名(カナ)	シヤ)チユウヒシユチリヨウスイシンキキン

24時間365日受付

中皮腫・アスベスト被害全国無料相談

(中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会協力)

ご相談・お問い合わせはこちらからご連絡ください。

 0120 117 554

FAX: 03 3683 9766

一般社団法人 中皮腫治療推進基金

☎ 0495 71 6611

www.cyuhisyuchiryousuisinkikin.com

一般社団法人
中皮腫治療推進基金

未来の
中皮腫
治療の
当たり前を
つくる。

MESSAGE

悔いの無い人生を目指します。



近畿大学医学部内科学教室腫瘍内科部門教授
中川 和彦

私は、悪性胸膜中皮腫の中心的研究者とは言えません。そんな私がなぜ代表理事という大役をお受けしたかと言いますと、多くの新規抗がん剤の臨床開発や新薬の適応拡大を実現してきたからです。悔いの無い人生を目指します。

中皮腫を治る病気にするために



兵庫医科大学病院呼吸器外科診療部長
長谷川 誠紀

中皮腫は以前に比べると長期生存や完治に至る方が増えてきましたが、まだまだ治る病気とは言えません。その原因の1つが、使える治療手段の少なさにあります。中皮腫治療推進基金は、患者さんと医療側が協力しながら新しい治療を開発するための基金です。中皮腫を治る病気にするために、一緒に頑張りましょう。

家族への思いを語る多くの被害者のために



大阪アスベスト弁護団団長・弁護士
村松 昭夫

病苦の中でも、最後の力を振り絞って無念さと家族への思いを語る多くの被害者の方に接してきました。全面的な救済とともに、一日でも早く、中皮腫が治る病気なるよう微力ですが、お手伝いしたいと思います。

新薬や新たな治療法の提供に向けて



NPO法人 中皮腫サポートキャラバン隊理事長
右田 孝雄

私は中皮腫患者です。私の思いは一日でも長く生きたい、一日でも長く家族と一緒にいたいということです。がんの10年生存率は全体で約60%と発表されています。しかし、難治性希少がんでもある中皮腫は10%に満たないのが現実です。中皮腫患者が第一に望んでいるのが新薬や新たな治療法の提供です。その切実な思いの元、中皮腫治療推進基金が設立しました。患者さんに一刻も早く有効な薬を届けるために基金が活用されることを願います。

支援を必要とする患者さま

中皮腫やアスベスト疾患の多くはいまだに根治のむずかしいものがあります。関係者や社会一般に広く理解していただき

治療法が限られています。
一つでも選択肢が増え、
希望を持ちたいです。



館山 亮
46歳 北海道 胸膜中皮腫 患者さま

生きることを諦められません。

どうしても生きることを諦められません。なぜなら、まだ小学生の2人の子供がいるからです。私に母親として子供達の成長を見守らせていただけないでしょうか。



Y・O
45歳 静岡県
胸膜中皮腫 患者さま

治療法確立を強く望みます。

30歳で発
生きて育
て育てて
皮腫の治
療

病、6歳と2歳の子がおり、
る義務があります。腹膜中
法確立を強く望みます。



U・K
37歳 宮崎県
腹膜中皮腫
患者さま

ご家族・ご遺族さまのお声

状況にあり、患者とご家族のおかれている環境は厳しい
いと考え、みなさまからの声を集めました。

幼い子供をひとりで育てていく
不安があります。

みやび 41歳 千葉県 胸膜中皮腫 遺族さま
中皮腫というこわい病気がまだまだ世間に周知されていない。将来子供達が、「知らない」ことで、危険に晒されることを避けたいです。また、遺族としては、本人に全く落ち度がないのに罹患したことがとてももどかしいです。



研究者が安心して
研究に打ち込める
環境を整えてください。

アスベスト疾患が治る病気になるように、研究者が安心して研究に打ち込める環境を整えてください。

福原 由美
72歳 埼玉県
胸膜中皮腫
遺族さま



基金の活用について

● 新薬の開発支援

患者や家族にとって、わずかでも「希望」が見えることが大切です。選択肢の一つでも増やし、中皮腫が「治る病気」になることを目指します。



● 既存薬の適応拡大

発症部位や治療経過薬の使用範囲に制限のない臨床試験の実施適用を目指し、患者間改善していきます。



● 診断法の改善と予防法確立の支援

患者さんにとって負担や再発のリスクを下げる形での診断法は予後の改善にとっても大切な問題です。また、発症リスクの低下や防止に向けての研究も求められます。

